

定住自立圏構想に関する総務省の取組、
代表事例について

平成28年6月30日

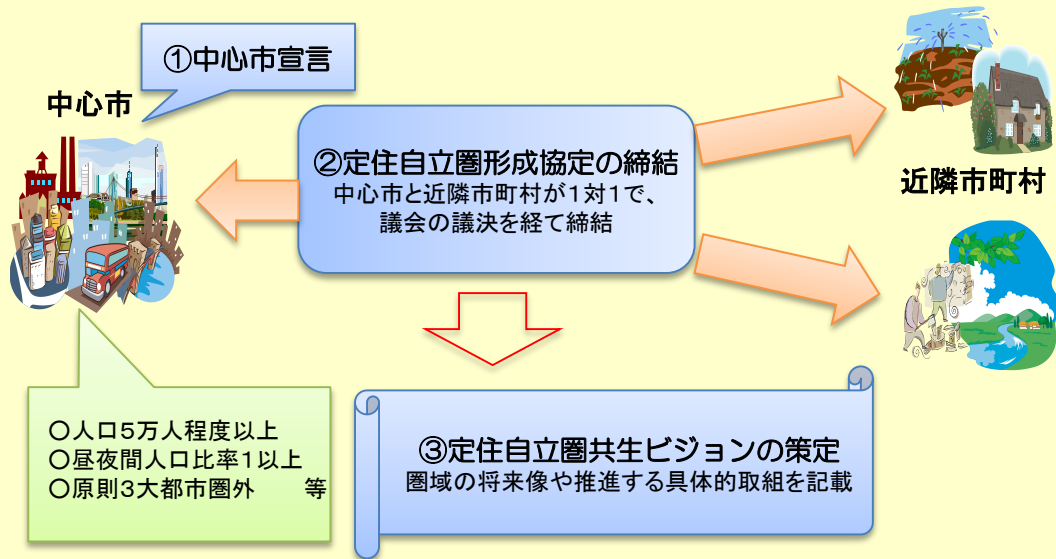
定住自立圏構想の意義

○ 地方圏の人口流出を食い止める「ダム機能」を確保するため、中心市と近隣市町村が相互に役割分担し、連携・協力することにより、圏域全体として必要な生活機能等を確保する「定住自立圏構想」を推進し、地方圏における定住の受け皿を形成する。

【圏域に求められる役割】

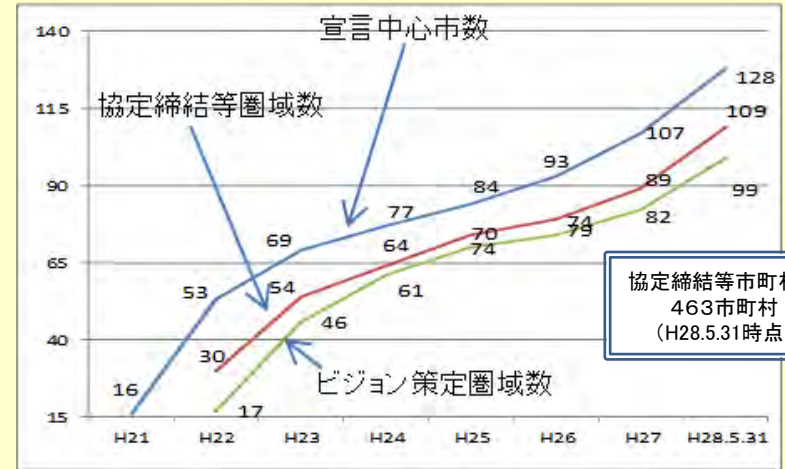
- ①生活機能の強化（医療、福祉、教育、産業振興、環境 等）
- ②結びつきやネットワークの強化（地域公共交通、交通インフラ整備、地産地消、交流移住 等）
- ③圏域マネジメント能力の強化（合同研修・人事交流、外部専門家の招へい 等）

圏域形成に向けた手続



定住自立圏構想への取組状況

KPI: 2020年(平成32年) 140圏域 (H28.5.31現在 109圏域)
(市町村・圏域数)



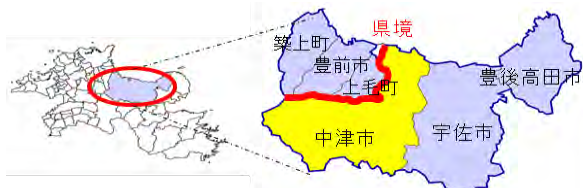
※H27以前は4月1日時点の数値

定住自立圏構想に対する支援策

- 定住自立圏共生ビジョンに基づき実施する事業、外部人材の活用や地域医療の確保に要する経費等に対する財政支援
- その他、地方債（地域活性化事業債）、関係各省による事業の優先採択 等

九州周防灘地域定住自立圏

平成21年3月 中津市が中心市宣言
 平成21年11月 定住自立圏形成協定締結
 平成22年3月 定住自立圏共生ビジョン締結



福岡県・大分県

圏域面積	1,429.9km ²
(中心市面積)	(491.2km ²)

中心市名	人口(人)	昼夜間人口比率
中津市	84,312	1.024

近隣市町村名	人口(人)	近隣市町村名	人口(人)
宇佐市	59,008	築上町	19,544
豊後高田市	23,906	上毛町	7,852
豊前市	27,031	圏域合計	221,653

※平成22年国勢調査

取組分野	医療	○	環境	○	地産地消	○
	福祉	○	地域公共交通	○	交流移住	○
	教育	○	ICTインフラ	○	合同研修・人事交流等	○
	産業振興	○	交通インフラ	○	その他	○

主な取組事業

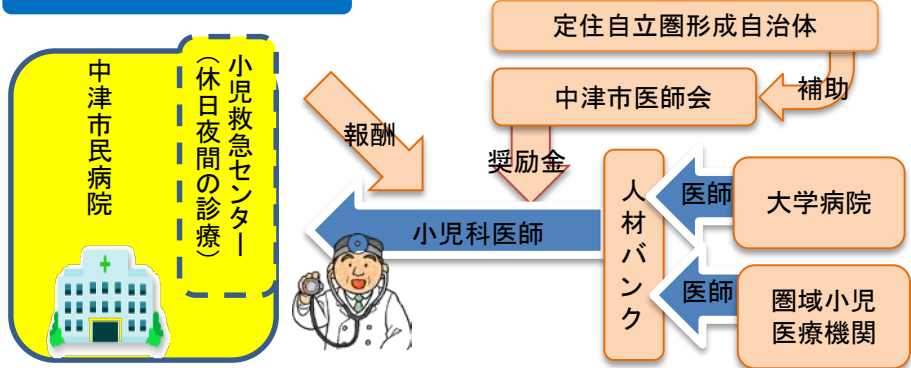
- ・圏域内自治体・医師による小児救急医療体制確保
- ・中小企業勤労者福祉サービスセンターの共同運用
- ・コミュニティバスの運行
- ・空き家情報の共同発信
- ・圏域自治体職員の合同研修

特徴的な取組

小児救急医療体制の確保

- 基幹病院である中津市民病院に勤務する医師の負担を軽減させ、県境を跨ぐ24万人医療圏を支えていくため、新たに小児救急センターを整備
- 同センターにおいて、大学病院の小児科医等の応援医師による診療により、周辺自治体小児救急患者の休日夜間の診療体制を確保

小児救急センター体制図



医療、地域公共交通

コミュニティバス豊前中津線運行事業

- 通勤需要等を踏まえ市役所から市民病院への県境を越えたコミュニティバス路線を新設し、圏域住民の利便性を向上

コミュニティバス利用者推移

